

# 古文ドリル：「に」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「に」の正体（8パターン）

古文の「に」は **識別問題の最難関** と言われます。大きく **8種類** あります。

種類	接続/品詞	判別ポイント	例
① 完了の助動詞「ぬ」連用形「に」	連用形接続	下に「き・けり・たり」など	花咲き <b>に</b> けり
② 断定の助動詞「なり」連用形「に」	体言・連体形接続	下に「あり・侍り・はべり」	男 <b>に</b> ありけり
③ ナ変動詞「往ぬ」「死ぬ」連用形	ナ変動詞	「往に」「死に」一語	往 <b>に</b> けり／死 <b>に</b> ぬ
④ ナリ活用形容動詞連用形語尾「に」	形容動詞	「静か」「あはれ」など語幹あり	静か <b>に</b> ／あはれ <b>に</b>
⑤ 副詞の一部「に」	副詞	「げに」「つひに」「すでに」	げ <b>に</b> ／つひ <b>に</b> ／す <b>で</b> に
⑥ 格助詞「に」	体言・連体形接続	場所・時間・対象・目的・原因	京 <b>に</b> 行く／夕方 <b>に</b> 着く
⑦ 接続助詞「に」	連体形接続	原因・逆接・並列「～ので／～のに」	雨降る <b>に</b> 、出でず
⑧ 副助詞「に」	強調	同じ語の反復「見る <b>に</b> 見る」など	待ち <b>に</b> 待ちて

### 識別の鉄則

1. **下接語** を最優先で見る
2. 「**に**けり／**に**き／**に**たり／**に**けむ」→ 完了「ぬ」連用形
3. 「**に**あり／**に**侍り／**に**はべり／**に**おはす」→ 断定「なり」連用形
4. **直前の語** を見る
5. 体言・連体形＋「に」→ 断定 or 格助詞 or 接続助詞
6. 連用形＋「に」→ 完了 or 形容動詞語尾 or ナ変動詞
7. 副詞「げに・つひに」など→ 副詞の一部（一語で覚える）

8. **形容動詞の語尾** は「に」だけで存在しない。必ず「静か・あはれ・きよら・あらた」など語幹を伴う
9. **接続助詞「に」** は連体形+「に」で「～ので／～のに」と訳せる
10. **断定「なり」連用形「に」** は下に「あり」などラ変動詞か補助動詞が必須
- 最初の20問は8パターンの基礎、後半に進むにつれて 入試で頻出の引っかけパターン、係り結び・敬語が絡む応用、さらに難関大の実戦問題へとレベルが上がります。

## 🎯 解き方のコツ (時短テクニック)

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

### コツ① 「に」を見たら **まず下接語 (直後の語) を瞬時にスキャン**

- ・ 「にけり／にき／にたり／にけむ／にたる」 → 完了「ぬ」連用形\*\* で即決
- ・ 「にあり／に侍り／にはべり／におはす／にこそ／にや／にか」 → 断定「なり」連用形\*\*
- ・ この2パターンで「に」の頻出問題の **半分以上** が片付く。下を見る癖をつける。

### コツ② 「○○に」の ○○の品詞・形を見る

- ・ 「静かに／あはれに／きよらに／にはかに」 → **形容動詞ナリ活用**の語尾 (語幹に意味がある語)
- ・ 「げに／つひに／さらに／すでに／まことに」 → **副詞の一部** (一語で覚える)
- ・ これは「に」単独で識別せず、語幹ごとパターン暗記。

### コツ③ 「往に・死に」が見えたら **それだけで終了**

- ・ 「往ぬ」「死ぬ」はナ変。「往に」「死に」は **一語の動詞の連用形**。
- ・ 形を見た瞬間に「ナ変連用形」と答えを書く。前後を見る必要なし。

### コツ④ 「連体形+に」は **訳して決める**

- ・ 「～のに／～ので」と訳せる → **接続助詞「に」** (例：雨降るに、出でず)
- ・ 場所・時間・対象を表す → **格助詞「に」** (例：京に行く)
- ・ 連体形の下に「あり／侍り」があれば断定 (コツ①の例外確認)

### 試験本番でのチェック順序

1. **下接語** を見る (けり・たり・あり・侍り → 完了 or 断定で即決)
2. 「往に」「死に」かどうか確認 (YES → ナ変連用形)

3. 直前が「静か・あはれ」など **語幹** ならナリ活用形容動詞語尾
  4. 「げに・つひに」などは副詞として一語で覚えている語と照合
  5. 残ったら **連体形+に** → 訳で接続助詞 or 格助詞を決める
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

### よくある引っかけ

- 「**にて**」「**にして**」が来たら「**に**」単独で識別せず別物として扱う（場所・手段の格助詞または接続）
- 「**ありにけり**」のような「**あり+に+けり**」は完了「ぬ」連用形。断定と勘違いしない
- 「**にこそ／にや／にか**」は **断定「なり」+係助詞** で、下に「**あらめ／あらむ**」が省略されているパターン
- 形容動詞語尾の「**に**」を格助詞と取り違える → 語幹に意味があるかで判定

## 採点表

各セクション末に空欄を残してあります。最後にトータルで「100点満点中何点取れたか」を記録してください。

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

## 【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

8パターンを純粹に識別する基本問題。

**Q1. 次の傍線部「に」を識別せよ。**

花咲き**に**けり。

Q2. 次の傍線部「に」を識別せよ。

男にありけり。

Q3. 次の傍線部「に」を識別せよ。

静かに眠る。

Q4. 次の傍線部「に」を識別せよ。

京に行く。

Q5. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雨降るに、出でず。

Q6. 次の傍線部「に」を識別せよ。

春過ぎて夏来にけり。

Q7. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あはれに思ふ。

Q8. 次の傍線部「に」を識別せよ。

山に入る。

Q9. 次の傍線部「に」を識別せよ。

往にけり。

Q10. 次の傍線部「に」を識別せよ。

げにさも侍る。

Q11. 次の傍線部「に」を識別せよ。

都にありけり。

Q12. 次の傍線部「に」を識別せよ。

つひに雪降りぬ。

Q13. 次の傍線部「に」を識別せよ。

夕方に着く。

Q14. 次の傍線部「に」を識別せよ。

花咲くに、人来たる。

Q15. 次の傍線部「に」を識別せよ。

死にぬ。

Q16. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あらたに造る。

Q17. 次の傍線部「に」を識別せよ。

母に会ふ。

Q18. 次の傍線部「に」を識別せよ。

花咲きにたり。

Q19. 次の傍線部「に」を識別せよ。

御使ひに侍り。

Q20. 次の傍線部「に」を識別せよ。

すでに夜更けぬ。

基礎編 / 20

## 【第2部】標準編 (Q21~Q50)

「に」の前後にさらに別の助動詞・敬語・係助詞が絡むパターン、文脈で識別が必要なパターン。

Q21. 次の傍線部「に」を識別せよ。

月出でにけり。

Q22. 次の傍線部「に」を識別せよ。

男におはしけり。

Q23. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あはれに侍り。

Q24. 次の傍線部「に」を識別せよ。

夜更くるに、なほ語る。

Q25. 次の傍線部「に」を識別せよ。

京にのぼる。

Q26. 次の傍線部「に」を識別せよ。

露置く秋になりぬ。

Q27. 次の傍線部「に」を識別せよ。

哀れにもあるかな。

Q28. 次の傍線部「に」を識別せよ。

死にたる人。

Q29. 次の傍線部「に」を識別せよ。

ことさらに急ぐ。

Q30. 次の傍線部「に」を識別せよ。

道に迷ふ。

Q31. 次の傍線部「に」を識別せよ。

花咲くに、雨降り。

Q32. 次の傍線部「に」を識別せよ。

我れ古典の道にあらず。

Q33. 次の傍線部「に」を識別せよ。

都人に侍り。

Q34. 次の傍線部「に」を識別せよ。

山に入る人なし。

Q35. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雪降り出でにけり。

Q36. 次の傍線部「に」を識別せよ。

寒げに見ゆ。

Q37. 次の傍線部「に」を識別せよ。

我にな問ひそ。

Q38. 次の傍線部「に」を識別せよ。

のどかに過ぐ。

Q39. 次の傍線部「に」を識別せよ。

いかにせむ。

Q40. 次の傍線部「に」を識別せよ。

帰るに帰られず。

Q41. 次の傍線部「に」を識別せよ。

げに思ふ。

Q42. 次の傍線部「に」を識別せよ。

海に漕ぎ出づ。

Q43. 次の傍線部「に」を識別せよ。

ことば多きに、心せばし。

Q44. 次の傍線部「に」を識別せよ。

御所に侍り。

Q45. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あらたに起こる。

Q46. 次の傍線部「に」を識別せよ。

寝(ね)にけり。

Q47. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雪深きに、道見えず。

Q48. 次の傍線部「に」を識別せよ。

都には花咲きにけり。

Q49. 次の傍線部「に」を識別せよ。

夜半におどろく。

Q50. 次の傍線部「に」を識別せよ。

をかしげにものし給ふ。

標準編 / 30

## 【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

文脈・係り結び・敬語・引用が絡む応用問題。

Q51. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あはれにおぼしめす。

Q52. 次の傍線部「に」を識別せよ。

風のどかに吹く。

Q53. 次の傍線部「に」を識別せよ。

我は男にこそありけれ。

Q54. 次の傍線部「に」を識別せよ。

大納言にぞありける。

Q55. 次の傍線部「に」を識別せよ。

知るに及ばず。

Q56. 次の傍線部「に」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ人にもあらず。

Q57. 次の傍線部「に」を識別せよ。

静かに夜は更けゆきけり。

Q58. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あはれに思ひ給ふ。

Q59. 次の傍線部「に」を識別せよ。

名月に雲ある。

Q60. 次の傍線部「に」を識別せよ。

のどかに春の日を過ごしけり。

Q61. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雨降るに、なほ来たる人なし。

Q62. 次の傍線部「に」を識別せよ。

神に祈り給ふ。

Q63. 次の傍線部「に」を識別せよ。

露にもぬる袖。

Q64. 次の傍線部「に」を識別せよ。

飽かずに別る。

Q65. 次の傍線部「に」を識別せよ。

御供仕うまつるに、御車止まりぬ。

Q66. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あらはに仰せらる。

Q67. 次の傍線部「に」を識別せよ。

庭に月さしけり。

Q68. 次の傍線部「に」を識別せよ。

静かに思ひ侍り。

Q69. 次の傍線部「に」を識別せよ。

思ふにたがふ。

Q70. 次の傍線部「に」を識別せよ。

月にぞ宿る。

Q71. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あけぼのにこそ。

Q72. 次の傍線部「に」を識別せよ。

鳥にな慕はれそ。

Q73. 次の傍線部「に」を識別せよ。

待ちに待ちたれども、来ず。

Q74. 次の傍線部「に」を識別せよ。

名月に雲、花に風。

Q75. 次の傍線部「に」を識別せよ。

をかしげにおはす。

Q76. 次の傍線部「に」を識別せよ。

親に孝なる人。

Q77. 次の傍線部「に」を識別せよ。

行く春に惜しまるる人。

Q78. 次の傍線部「に」を識別せよ。

神に祈る。

Q79. 次の傍線部「に」を識別せよ。

嵐に散る花。

Q80. 次の傍線部「に」を識別せよ。

言ふに言はれず。

応用編 / 30

## 【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

実際の大学入試（共通テスト・難関私大・国公立二次）レベル。

Q81. 次の傍線部「に」を識別せよ。

男ありけり。その男、身を要なきものに思ひなして、京にはあらし、東の方に住むべき国求めにとて行きけり。

Q82. 次の傍線部「に」を識別せよ。

いつぞやの事なりけむ。月の出づるを見つけたる人ありて、「あれは何にか」と問ひければ、隣の翁、「月にこそあれ」と答ふ。

Q83. 次の傍線部「に」を識別せよ。

京にて生まれたりし女子、国にてにはかに失せにしかば、このたび、はやくと思ふ心あり。

Q84. 次の傍線部「に」を識別せよ。

五月雨を集めて早し最上川——この句、芭蕉が出羽の国にて詠ぜしものにこそ。

Q85. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子参りて、炭櫃に火おこして、物語などしてあつまり候ふに、「少納言よ、香炉峰の雪、いかならむ」と仰せらるれば、御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせ給ふ。

Q86. 次の傍線部「に」を識別せよ。

中納言参り給ひて、御扇奉らせ給ふに、「隆家こそいみじき骨は得て侍れ」と申し給ふ。

Q87. 次の傍線部「に」を識別せよ。

暁に鳥の声を聞きて、目覚めぬ。

Q88. 次の傍線部「に」を識別せよ。

いとほしき御けはひに、上に心も乱れて、「げに、かばかりの罪、深かるべし」と思ひ給ふ。

Q89. 次の傍線部「に」を識別せよ。

折節の移り変はるこそ、ものごとにあはれなれ。

Q90. 次の傍線部「に」を識別せよ。

我は男にしあれば、女のかかる目に遭ふを見るも、心苦しき限りなり。

Q91. 次の傍線部「に」を識別せよ。

よろづにいみじ。

Q92. 次の傍線部「に」を識別せよ。

木の葉に埋もるる懸樋のしづくならでは、つゆおとなふものなし。閑伽棚に菊・紅葉など折り散らしたる、さすがに住む人のあればなるべし。

Q93. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あけぼのの空ぼおぼろにかすめるに、人の声する。

Q94. 次の傍線部「に」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやしやに。

Q95. 次の傍線部「に」を識別せよ。

心にかかれども、口に出さず。

Q96. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雪のいと高う降りたるに、几帳の帷子のさやさやと鳴る。

Q97. 次の傍線部「に」を識別せよ。

ねぶたきも、人のけはひに、ふと目覚むるものなり。

Q98. 次の傍線部「に」を識別せよ。

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけめ、これらは、ただ夢のごとくにぞある。

Q99. 次の傍線部「に」を識別せよ。

物のあはれは秋こそまされと人ごとにいふ。

合計 / 100

## あとがき

「に」の識別は古文の中で最も難しいとされる項目です。 - まず **直前の語の品詞・活用形** を見る - 次に **直後の語** を見る（「けり」「あり」「侍り」「おはす」など） - 文意で判断するのが最後の手段

「に+けり=完了」「に+あり=断定」の2つの定型を完全に身につければ、半分はクリアできます。

残りは形容動詞語尾・格助詞・接続助詞・副詞の一部を文脈で判別。本ドリル100問で「に」のすべてのパターンに触れています。繰り返し解いて、識別の勘を養ってください。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太 お問い合わせ：[フィット公式サイト](https://kotennosenensei.com)